



平成25年度地域福祉研修会

災害ボランティアセンターの意義と役割

平成25年度地域福祉研修会を、去る2月15日、社会福祉センターで開催し、自治会関係者や民生委員ら44人の参加がありました。

研修会は、地域課題を共有し、解決を町民と一緒に考えていくことを目的に隔年で開いているもので、今年度は、危惧される大災害で被災した場合に設置を想定している災害ボランティアセンターをテーマに講義と演習を行いました。

講師には、数々の被災地支援経験のある一般社団法人ウエルビー・デザイン（札幌）の篠原辰二理事長を招き、被災地支援でのエピソードを交えながら、設置する際のポイントを指導いただきました。

講話の中で、地域の福祉力とボランティアの支援力の関係を説明。平時の「福祉力」を最大とすると、災害によりその福祉力が下がり、自分たちではどうにもならない状態になる。

これが災害。これを元に戻そうとするのが、「復旧・復興」であり、これを補うものが、町外からやってくるボランティアの「支援力」である。福祉力が戻ってくと支援力も少なくなっていくことが理想的で、災害ボランティアセンターでは、この平時との福祉力と支援力のギャップを回復するためのボランティア調整が必要である。

避難所からの声で「あの頃は豚小屋のブタだった…」というエピソードがある。

一部の避難所生活では、食事は用意され、自分達でもできる気晴らしの洗濯、掃除でさえもボランティアに奪われてしまい、物を与えられるだけの生活であった。ただボランティアという労力を提供するのではなく、生活に着目し、ニーズにあった支援をしていく必要があることを認識させる。

災害ボランティアは、「泥出し」「炊き出し」「物資支

災害ボランティアで常に意識しなければならないこと

支援活動は手段

目的は生活の再建

- 泥出し、片付け作業
- 炊き出し
- 物資支援
- 遺留品洗浄
- 避難所支援
- 要援護者のサポート
- 入浴支援
- 病院送迎・移動支援
- 引越し手伝い
- 心のケア
- 就業支援
- 元気づけ行事
- よろず相談、話し相手、寄り添い支援
- 買い物代行
- 通訳、翻訳、点訳、手話
- わかりやすい情報提供
- 申請手続き支援
- 託児・児童保育や児童館支援
- 学習支援、子どものサポート
- ダニ駆除
- 消臭
- 洗濯支援（ふとんや衣類）
- サロン、場の提供
- 資材提供
- ペットの世話
- 大工ボランティア
- 個別のニーズ対応（アトピー、糖尿病等）

暮らしの全体を支える

- 物理的側面
- 経済的・労働的側面
- 社会関係的側面
- 契約的側面
- 心理・精神的側面
- 健康・身体的、生活技術的側面